

2022年5月9日

2022年3月期 決算説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053

ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>

お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

22.3期 決算レビュー

◇ 外部環境①	4
◇ 外部環境②	5
◇ 22.3期 連結経営成績	6
◇ 営業利益の増減要因	7
◇ 畜産飼料の動向	8
◇ 畜種別販売量と差別化飼料比率	9
◇ 水産飼料の実績	10
◇ その他セグメントの実績	11
◇ 畜産飼料の業界環境	12

中期経営計画

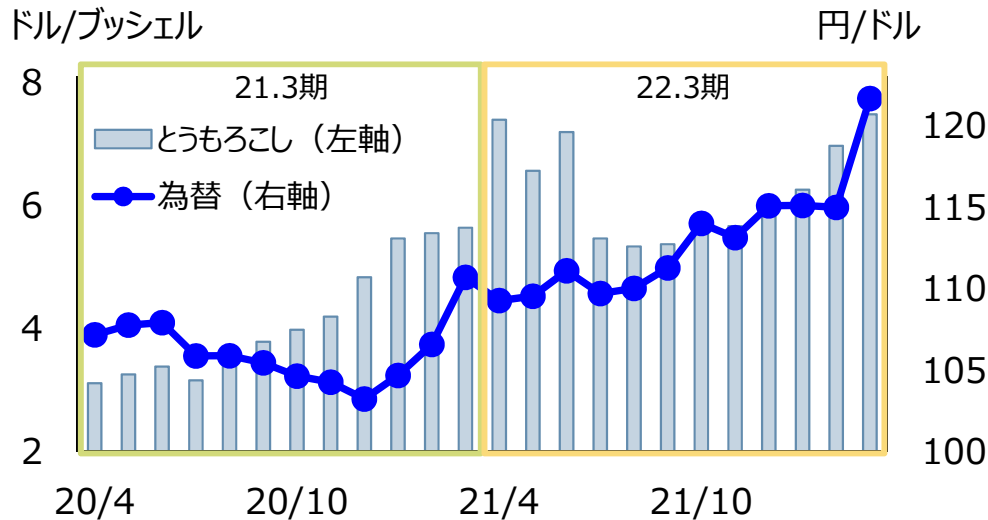
◇ 新中期経営計画の前提条件	14
◇ 新中期経営計画の基本方針	15
◇ 基本戦略	16
◇ 基本戦略1:飼料セグメントの規模拡大と収益力向上	17
◇ 畜種別及び地域別戦略	18
◇ 環境に配慮した飼料の開発・販売	19
◇ 付加価値のある水産物の販売強化による飼料の拡販	20
◇ 基本戦略2:その他セグメントの事業成長の加速	21
◇ 基本戦略3:成長する収益基盤を支える サステナビリティ経営の推進	22
◇ 新中期経営計画の定量計画	23
◇ 営業利益の増減要因	24
◇ 株主還元	25

参考資料

◇ 連結財政状態	27
◇ 用語集	28
◇ 畜種別販売戦略～トピックス	29

22.3期 決算レビュー

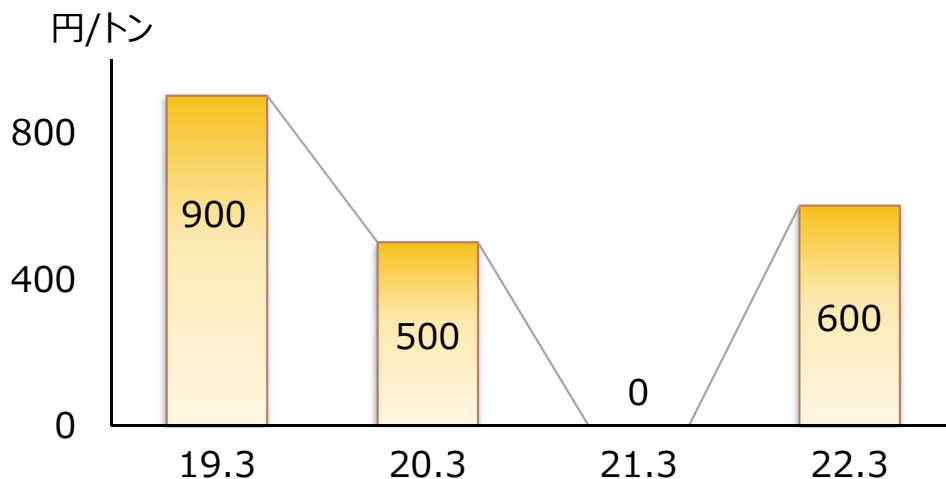
とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移



- ◇ とうもろこし
 - 前期と比較し、大幅に上昇
 - 中国の旺盛な需要やエタノール需要の増加が主な要因
- ◇ 為替
 - 前期と比較し、円安がさらに進行

仕入コストが増加

基金負担金単価の推移

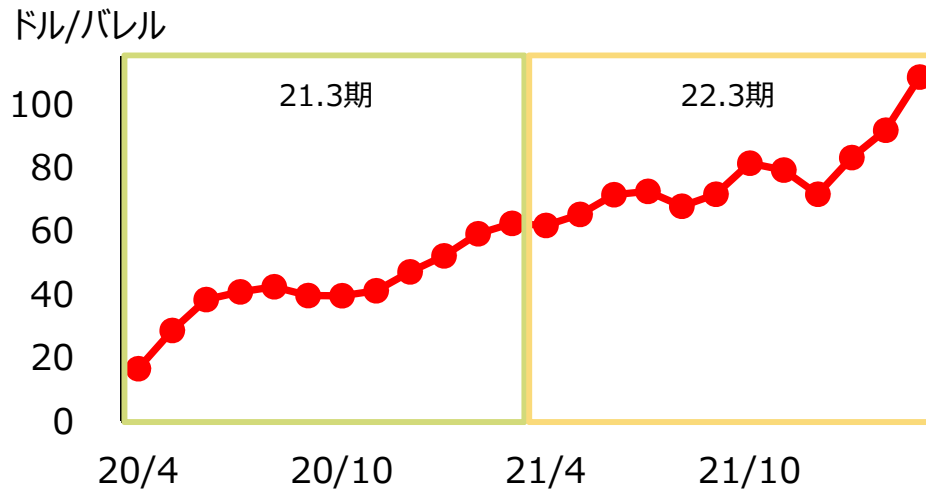


- ◇ 原料価格高騰により多額の補てん金が発動され、基金財源が減少
- ◇ 21.3期免除されていた基金負担金が22.3期再開(上期400円/t、下期800円/t)

販管費が増加

※ 基金負担金単価は、年度の平均単価とした

原油価格の推移



※「World Bank」によるWTI原油先物

- ◇ 20年4月より、ほぼ一貫して右肩上がり
- ◇ 22年3月には、100ドル/バレルを突破

製造コスト等が増加

新型コロナウイルスの影響

- ◇ 緊急事態宣言等の発令に伴い、外食による畜水産物需要の減少
- ◇ 巣ごもり需要が下支え
- ◇ 下期には、外食で持ち直しの動きが見られた

飼料業界に与えた影響は限定的

22.3期 連結経営成績

(単位：百万円)

	21.3 実	22.3 計 (1/31修正)	22.3 実	前期比	計画比
売上高	181,356	192,000	193,392	12,035	1,392
飼料	153,178	-	181,333	28,154	-
その他	28,178	-	12,059	△ 16,119	-
営業利益	5,387	4,000	4,138	△ 1,248	138
経常利益	5,744	4,350	4,564	△ 1,180	214
セグメント利益	5,513	-	4,577	△ 935	-
飼料	5,800	-	4,140	△ 1,660	-
その他	809	-	879	69	-
調整額	△ 1,097	-	△ 442	654	-
当期純利益	3,782	3,100	3,211	△ 570	111
設備投資額	2,630	-	2,952	322	-
減価償却費	3,213	-	3,073	△ 139	-

売上高

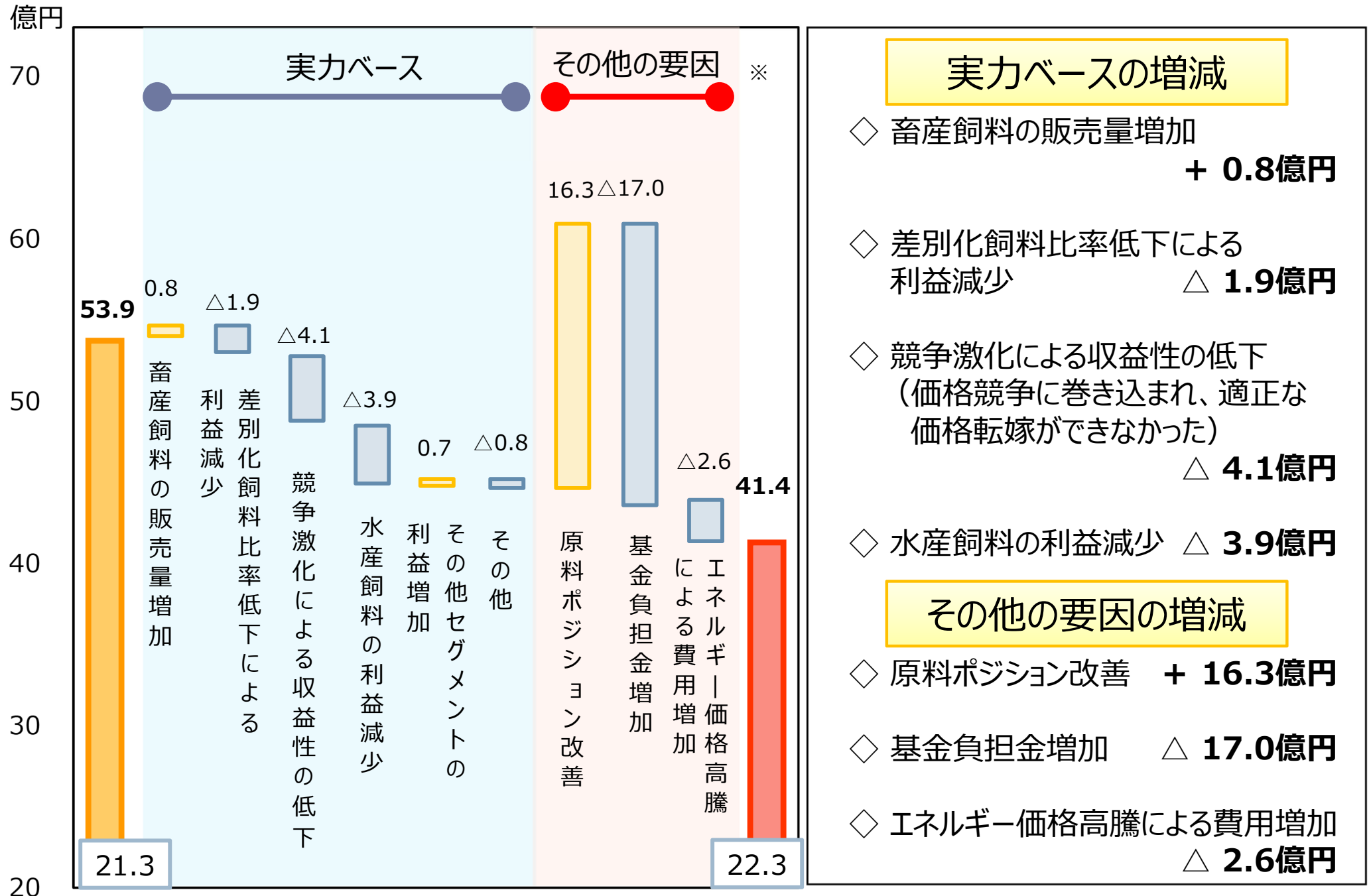
- ◇ 飼料
畜産飼料の平均販売価格が前期を上回り増収
- ◇ その他
収益認識会計基準の適用と前期の事業譲渡により減収

セグメント利益

- ◇ 調整額
前期に事業譲渡損を計上したことに加え、今期に投資有価証券売却益を計上したため

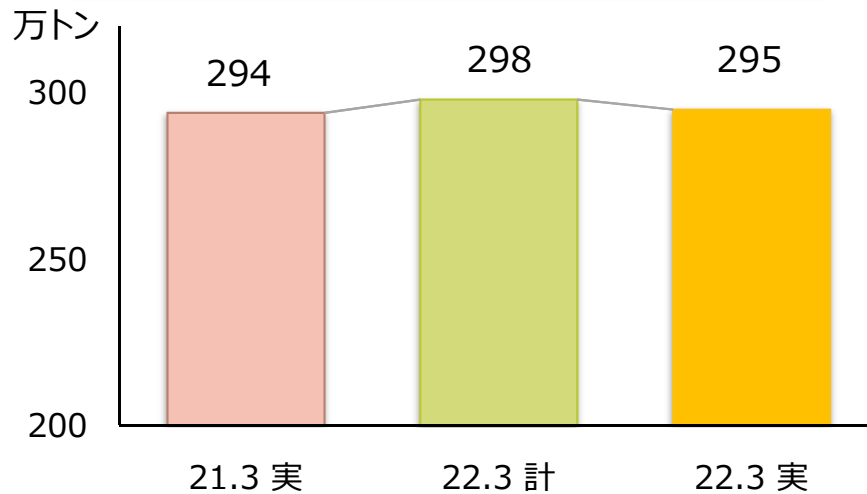
※ 従来「飼料事業」と「コンシューマープロダクツ事業」に区分していたが、22.3より「コンシューマープロダクツ事業」を「その他事業」に含めている
 21.3は、変更後の区分に基づき開示

※ 営業利益は7ページ以降で説明



※業績に影響を与える飼料業界特有の要因

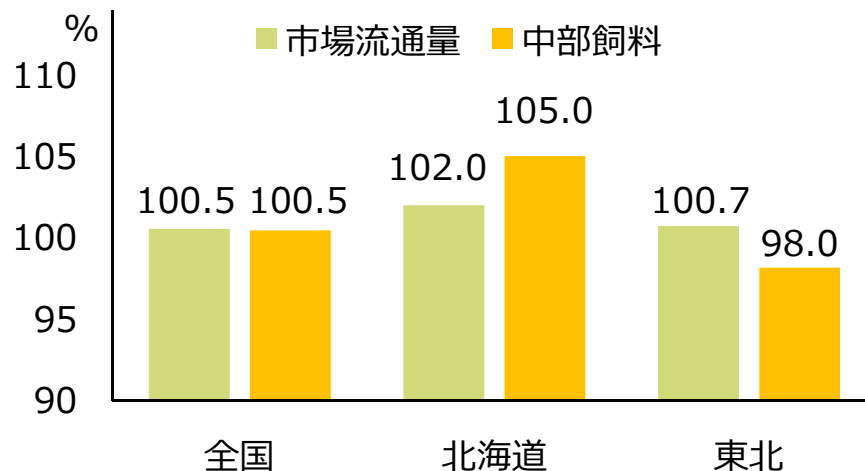
㊤畜産飼料販売量



- ◇ 前期を上回るも計画は未達
 - 鳥インフルエンザや豚熱の感染を受け、養鶏用・養豚用が計画を下回った
 - 地域では北海道、畜種では養牛用が高い伸びを示し、全体をけん引

前期より0.8億円増加

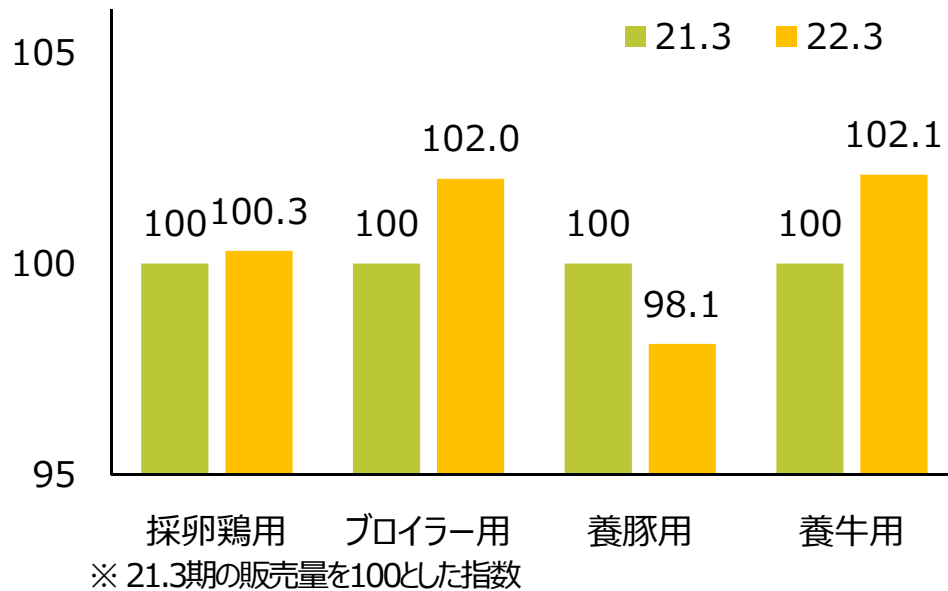
市場流通量及び㊤販売量 前年比



- ◇ 全国では市場並みの伸びにとどまる
- ◇ 北海道では釧路工場の本格稼働により市場を大きく超過
- ◇ 東北では採卵鶏のお客様が低卵価を見据えて飼養羽数を減らしたため、飼料の販売量が減少

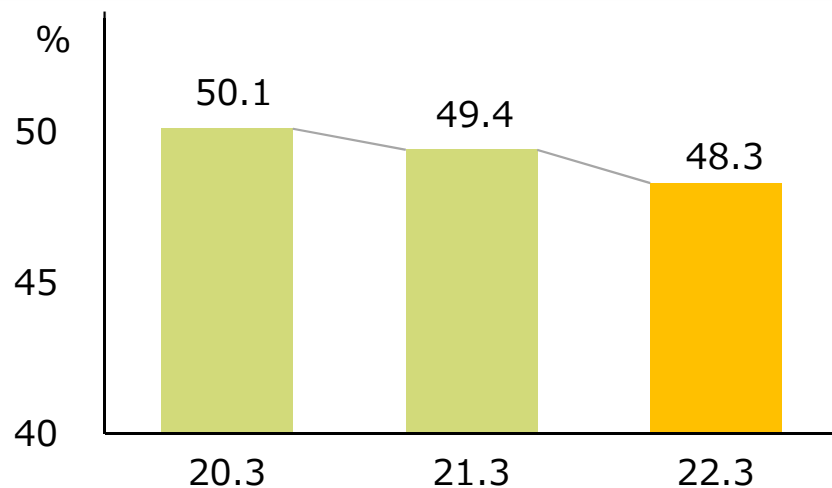
※ 4-2月の数量による比較

畜種別販売量前期比



- ◇ ブロイラー用は、東北では苦戦したものの、その他の地域が好調で、前期を上回る
 - お客様の生産性向上に貢献する提案が支持され、拡販に成功
- ◇ 養牛用はほぼ全て地域で前期を上回る
 - 子牛用のミルクを武器に、その後の成長段階に応じた飼料も拡販に成功
- ◇ 養豚用は大手取引先での豚熱感染等が影響し、販売量が減少

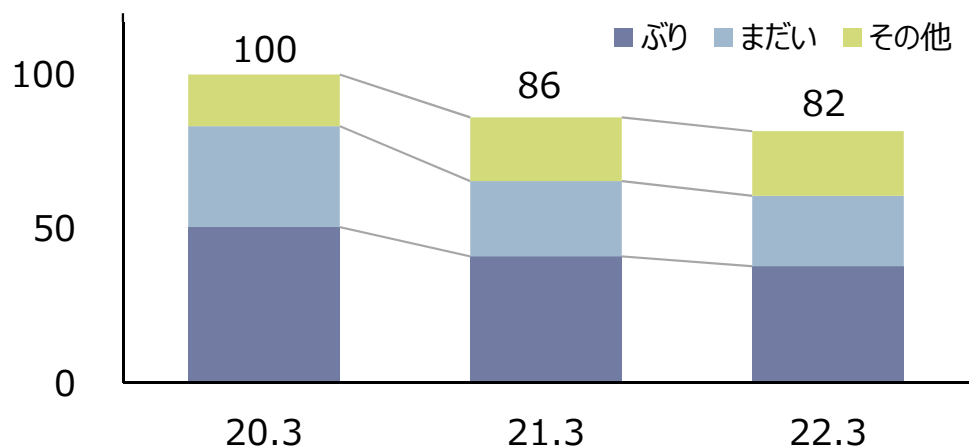
差別化飼料の売上高構成比



- ◇ 前期を下回る (48.3%)
 - 前期下期からの飼料価格の高騰により価格志向が強まった影響を受け、差別化飼料の汎用化が急速に進展

利益が1.9億円減少

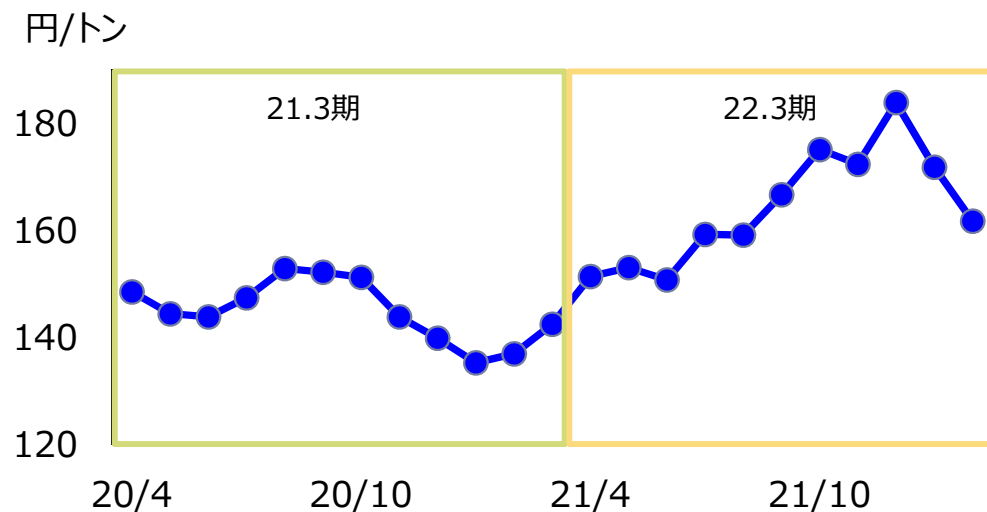
④水産飼料販売量の推移



※ 20.3期の販売量を100とした指数

- ◇ 2期連続で前年を下回る
 - 稚魚の不漁により飼料需要が低下し、ぶり用が減少
 - 前期にコロナ禍により減少したまだい用も回復できなかった

魚粉価格の推移

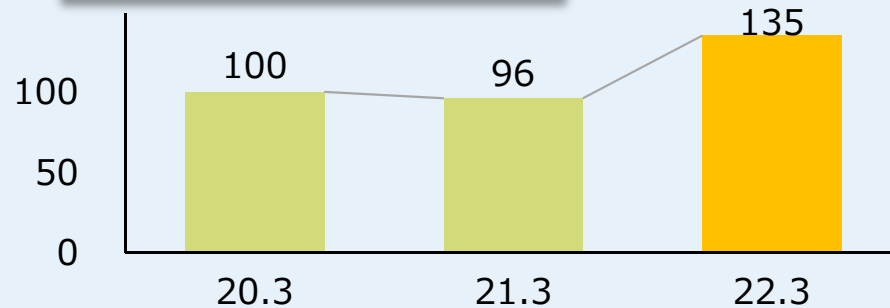


※ 財務省 貿易統計

- ◇ 主原料である魚粉の価格上昇等により利益率が低下
 - 水産飼料は定期的な価格改定がない
 - 競争激化により価格転嫁が進まず

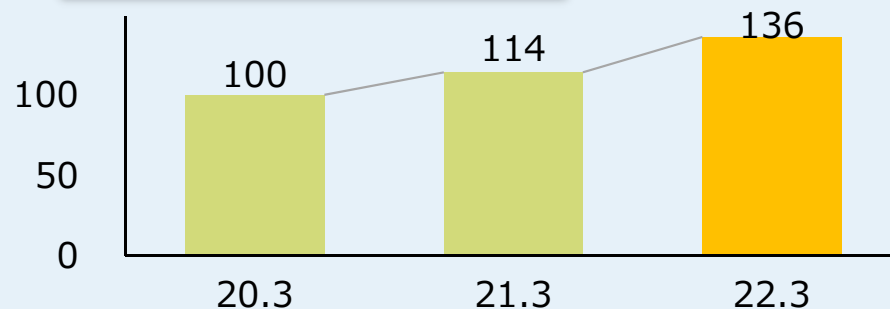
利益が3.9億円減少

鶏卵販売



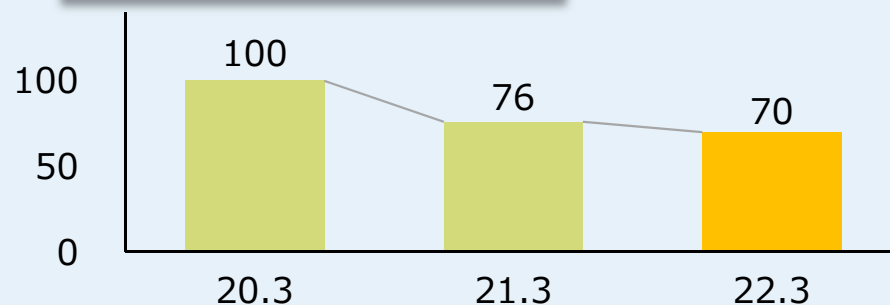
- ◇ 高相場のなか、量販店向け販売が増加し増益
- 特殊卵の販売が好調に推移
- ◇ 外食・業務用向けは微増も利益を下支え

肥料



- ◇ 販売量・利益とも過去最高を更新
- 原料高騰及び調達難のなか、有機入り配合肥料の販売が増加

畜産用機器

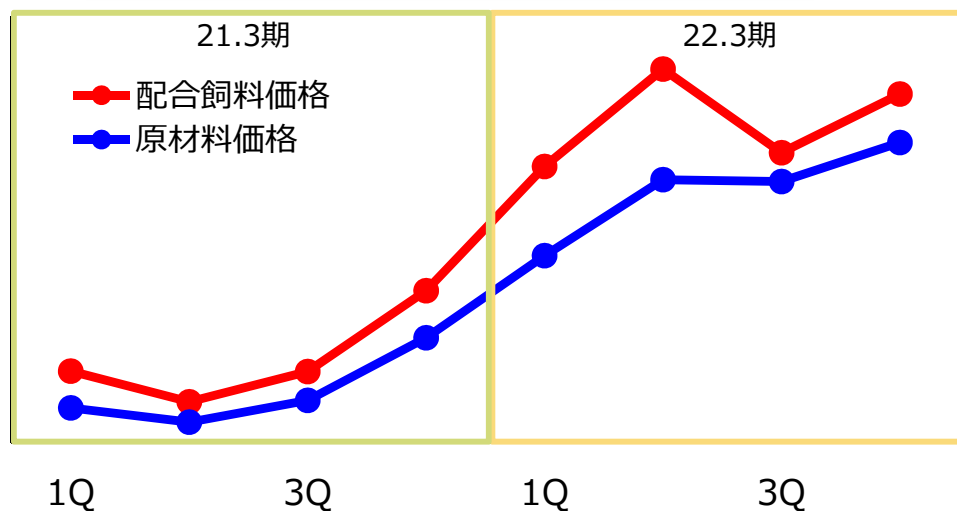


- ◇ 国内の大型案件が一段落した反動により、販売台数が減少し減益
- ◇ 機器メンテナンスは増加し、利益を下支え

※グラフは全て 20.3期のセグメント利益を100とした指数

前期より0.7億円増加

原料ポジションの状況

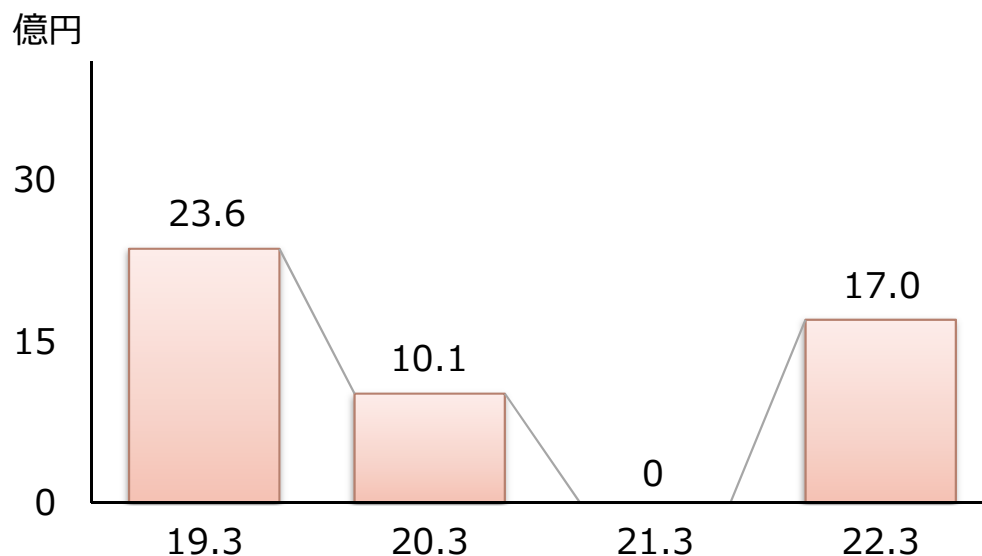


※ 配合飼料価格と原材料価格は当社数値

- ◇ 上期は前期と比較し大幅に改善
 - ◇ 下期は価格改定後に原料価格が上昇したことによりポジションが悪化
- ⇒ 通期で見れば改善

前期より16.3億円改善

基金負担金の推移



- ◇ 前期は負担金なし
- ◇ 当期は上期400円/t、下期800円/tの負担金が発生

利益が17億円減少

中期経営計画

項 目	内 容
原料ポジション	22.3期の水準で算出 ⇒ 23.3期 1 Qは悪化し、2 Q以降は改善すると見込む ⇒ 24.3期以降は23.3期比で改善すると見込む
電力費・燃料費	22年4～6月の見込みで算出 ⇒ エネルギー価格の高騰が続くと費用増加につながる
基金負担金	22.3期（実）： 600円/t（上期400円/t、下期800円/t） 23.3期： 1,250円/t（22.3期比+650円/t） 24.3期以降： 1,420円/t（23.3期比+170円/t） ⇒ 原料価格の高騰が続き、高額な補てん金が発動すると基金負担金はさらに増加する可能性あり
畜水産飼料の市場流通量	市場流通量はほぼ横ばいで推移すると見込む ⇒ 疾病・廃業等により減少する可能性あり

新中期経営計画（23.3期～25.3期）

【 経営ビジョン 】

社是：特性ある仕事をして社会に貢献する

特性ある畜水産物づくりと
お客様の生産性向上に寄与し
お客様とともに成長する



畜水産業界の持続的成長に貢献

豊かな食生活に貢献

【 基本方針 】

お客様への飼料の安定供給責任を万全に果たし
規模拡大と収益力向上により、強い収益基盤を構築する

【基本方針】

お客様への飼料の安定供給責任を万全に果たし
規模拡大と収益力向上により、強い収益基盤を構築する

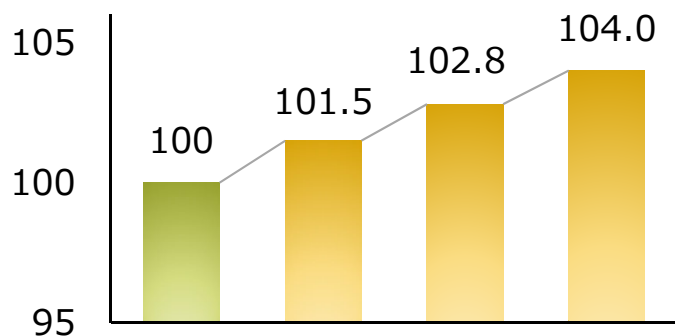
【基本戦略】

1. 飼料セグメントの規模拡大と収益力向上（畜産飼料・水産飼料）
2. その他セグメントの事業成長の加速（鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等）
3. 成長する収益基盤を支えるサステナビリティ経営の推進

畜水産飼料

- ◇ 畜種別及び地域別戦略の推進
- ◇ 環境に配慮した飼料の開発・販売による差別化飼料比率の向上
- ◇ 付加価値のある畜水産物の販売強化による飼料の拡販
- ◇ 製販一体、自社一貫生産体制の強みのスピード感を生かした『提案営業』の強化
- ◇ 積極的な設備投資による製造能力の増強
- ◇ 製販一体となったコスト改善及び生産性向上活動の継続

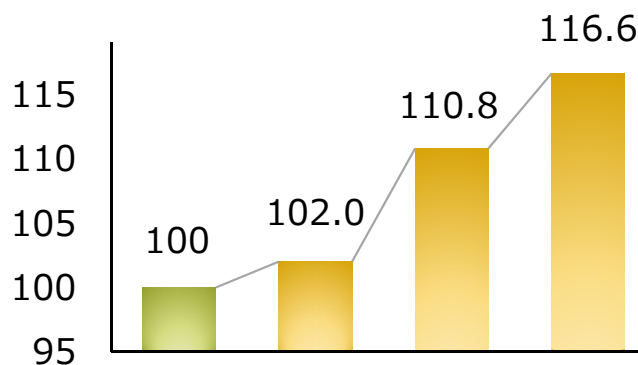
畜産飼料 販売計画



22.3 実 23.3 計 24.3 計 25.3 計

※ 22.3期の販売量を100とした指数

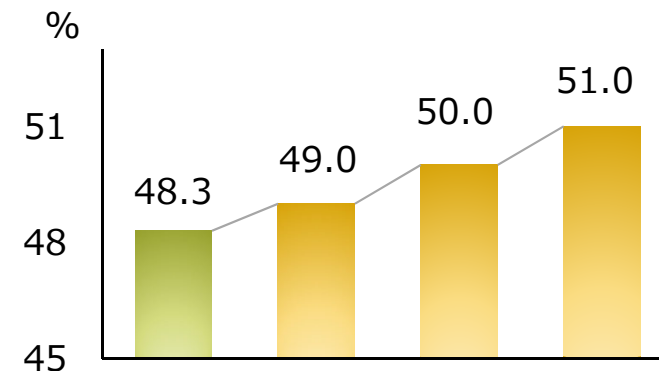
水産飼料 販売計画



22.3 実 23.3 計 24.3 計 25.3 計

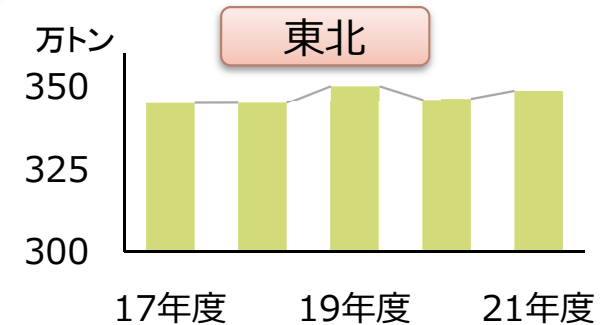
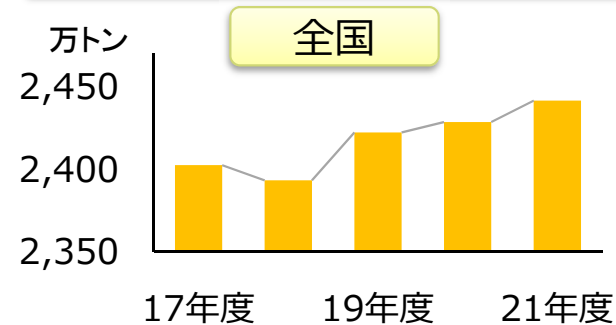
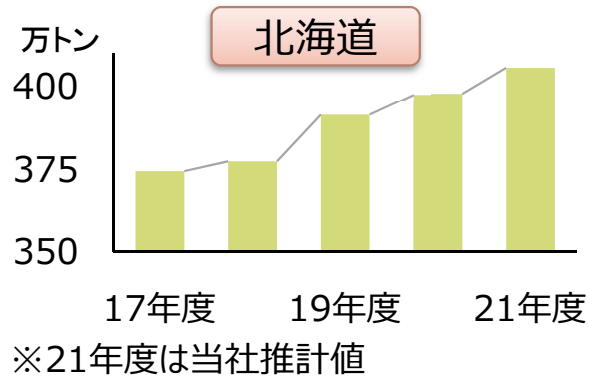
※ 22.3期の販売量を100とした指数

差別化飼料の売上高構成比



22.3 実 23.3 計 24.3 計 25.3 計

市場流通量の推移



北海道での戦略

環境に配慮した飼料（全畜種）
 輸入粗飼料不足に対応した飼料の提案（養牛用）
 お客様の生産性向上につながる独自の配合設計飼料の提案（ブロイラー用）
 Farmnote Compassの活用による拡販（養牛用）

釧路工場の独自技術を駆使した
 養牛用の提案行動を実施

東北での戦略

ブロイラー用SDシリーズのさらなる
 拡販

北海道でのさらなる拡販及び東北での巻き返しを狙う

環境に配慮した飼料の具体例

採卵鶏用飼料

鶏糞発生量を低減する飼料
鶏糞中の窒素を低減する飼料

養豚用飼料

豚糞発生量を低減する飼料
豚の食べこぼしが少ない飼料

水産飼料

魚粉を使わない飼料
魚粉の割合が低い飼料

環境への貢献

環境負荷の軽減
動物の飼育環境の改善
海洋資源の保護

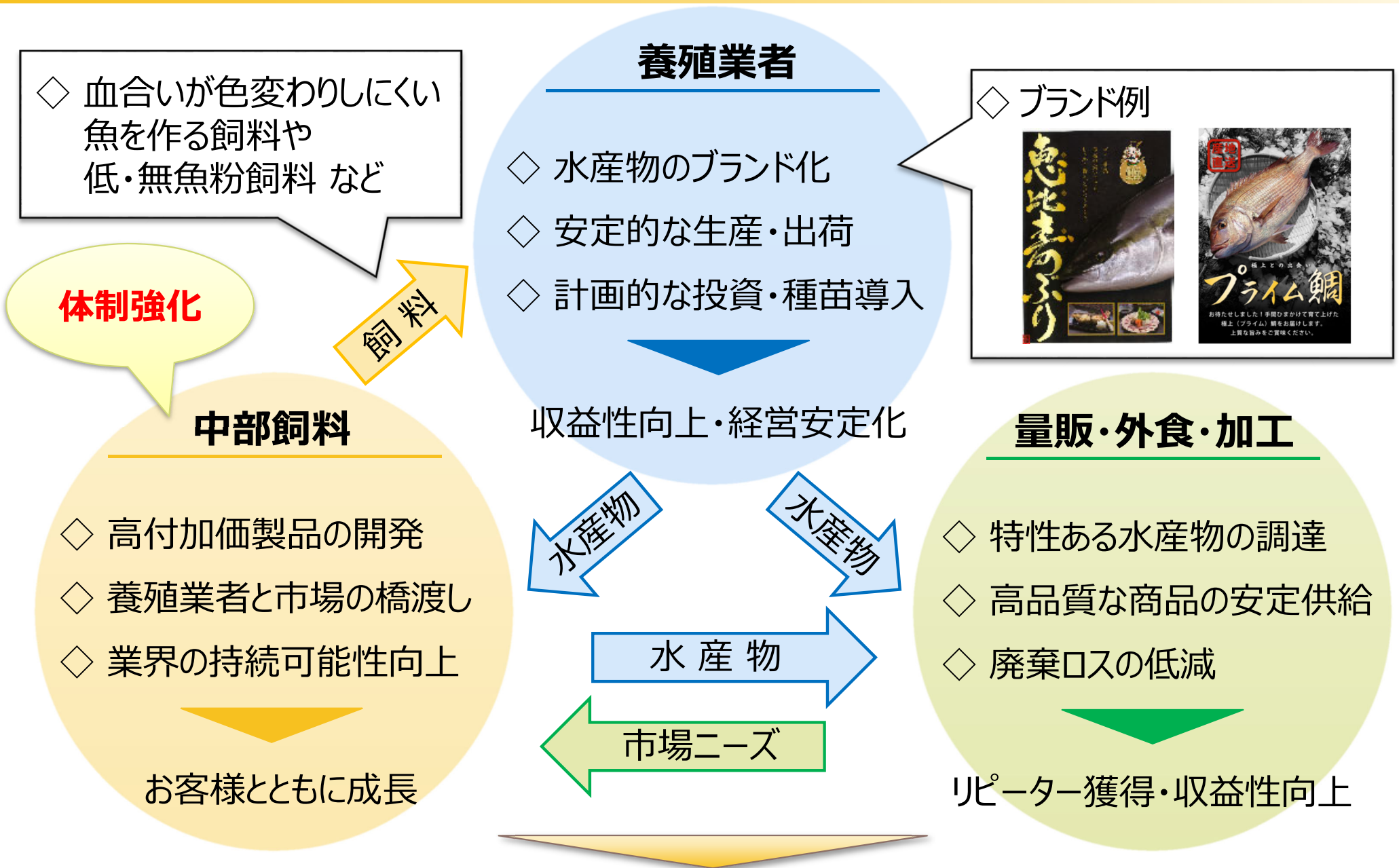


お客様への貢献

畜糞処理費用の軽減
動物の発育改善による売上増加
畜水産物の差別化



環境に配慮した飼料の拡販による差別化飼料比率の向上を目指す



水産飼料の拡販につなげる

鶏卵販売

- ◇ 特殊卵「ごまたまご」の拡販
- ◇ 特殊卵「平飼いシリーズ」のブランド化推進
- ◇ 外食・業務用向けの特殊卵の販売強化

肥料

- ◇ 有機入り配合肥料の強み（環境負荷が少ない等）を活用した販売強化
- ◇ 関東の生産拠点である神栖工場の製造設備増強による拡販

畜産用機器（子会社：中部エコテック）

- ◇ 畜産用機器の新規・追加設置の獲得、買換需要の掘り起こしを推進
- ◇ 中国、東南アジア等への販売強化
- ◇ 下水汚泥処理用機器の新規拡販

保険代理業（子会社：ダイコク）

- ◇ 畜産保険の販売を通じて生産者へ貢献
 - 疾病・災害等へのリスクヘッジ機能を訴求した販売強化
 - 飼料事業へのシナジー効果

その他セグメントの利益10億円を目指す

サステナビリティ経営の推進

- ◇ サステナビリティ委員会を推進母体としてESGの取組みを推進

Environment（環境）の主な取組

- ◇ 温室効果ガス排出量の削減
 - 2030年までにCO₂排出量を2020年度に比べて30%削減を目指す

Social（社会）の主な取組

- ◇ 働きやすく働きがいのある職場づくり
 - 安全な職場環境の実現
 - 働き方改革に対応する制度構築

Governance（ガバナンス）の主な取組

- ◇ 取締役会の実効性向上
 - 東証プライム市場における新コーポレートガバナンスコードへの対応

(単位：百万円)

	22.3 実	23.3 計	24.3 計 ※1	25.3 計 ※1
売上高	193,392	212,000	208,000	203,000
飼料	181,333	199,200	195,000	189,800
その他	12,059	12,800	13,000	13,200
営業利益	4,138	2,200	2,300	2,600
経常利益	4,564	2,600	2,700	3,000
セグメント利益	4,577	2,600	2,700	3,000
飼料	4,140	2,100	2,150	2,410
その他	879	930	960	1,000
調整額	△ 442	△ 430	△ 410	△ 410
当期純利益	3,211	1,800	1,850	2,100
設備投資額 ※2	2,862	2,600	5,300	5,100
減価償却費 ※2	2,846	2,790	2,960	3,400

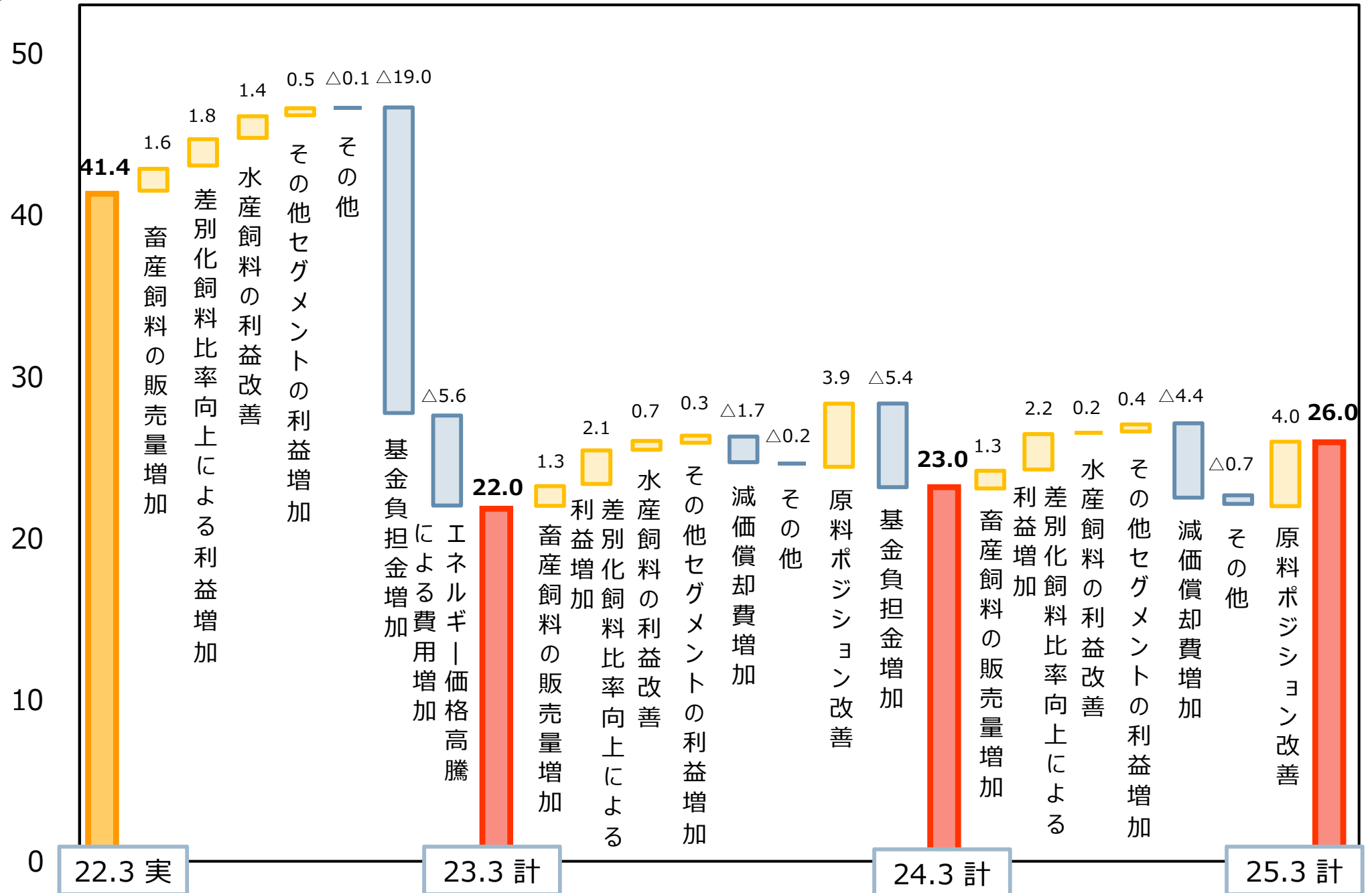
※1 子会社みらい飼料を23年9月に共同出資者の伊藤忠飼料へ売却する予定のため、売上高は減少する見込み

みらい飼料はコストセンターのため、利益に対する影響は軽微

2 みらい飼料の設備投資額・減価償却費を除く

営業利益の増減要因

億円

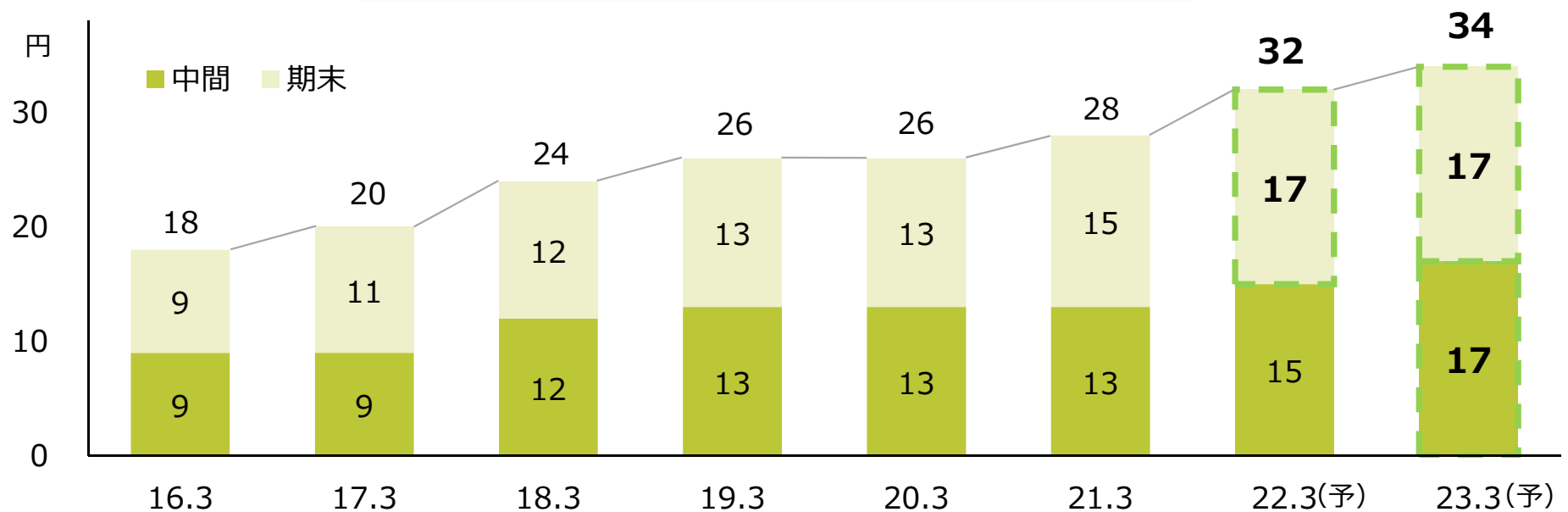


還元方針

- ◇ 安定配当を維持向上させる
- ◇ 将来の事業展開や経営環境の変化に対応するために必要な内部留保、業績及び純資産配当率（DOE）等を勘案し、配当を決定する
- ◇ 株価水準や財務状況等を勘案して自己株式の取得を機動的に実施し、資本効率の改善と株主の皆様への還元を図る

1株当たり配当金の推移

- ◇ 22.3期の期末は2円/株 増配予定
- ◇ 23.3期の中間・期末配当金ともに17円/株を予定



純資産配当率(%)	1.3	1.3	1.5	1.5	1.4	1.5	1.6	1.6
配当性向 (%)	19.8	17.7	17.1	20.8	16.6	22.2	29.9	56.2

参考資料

22.3期 連結貸借対照表

(単位：億円)

流動資産	575	(+16)	負債	258	(△18)
現預金	47	(△69)	仕入債務	146	(+13)
売上債権	363	(+59)	有利子負債	41	(△29)
たな卸資産	131	(+24)			
たな卸資産回転日数 26日			純資産	621	(+18)
流動比率 267%			株主資本	602	(+20)
			その他包括利益	16	(+2)
			非支配株主持分	2	(△4)
固定資産	304	(△15)	自己資本比率 70.4%		
有形	241	(△18)			
無形	5	(+1)			
投資その他	57	(+1)			
総資産	880	(+0)	負債・純資産	880	(+0)

※ () 内の数値は、21.3期末との比較

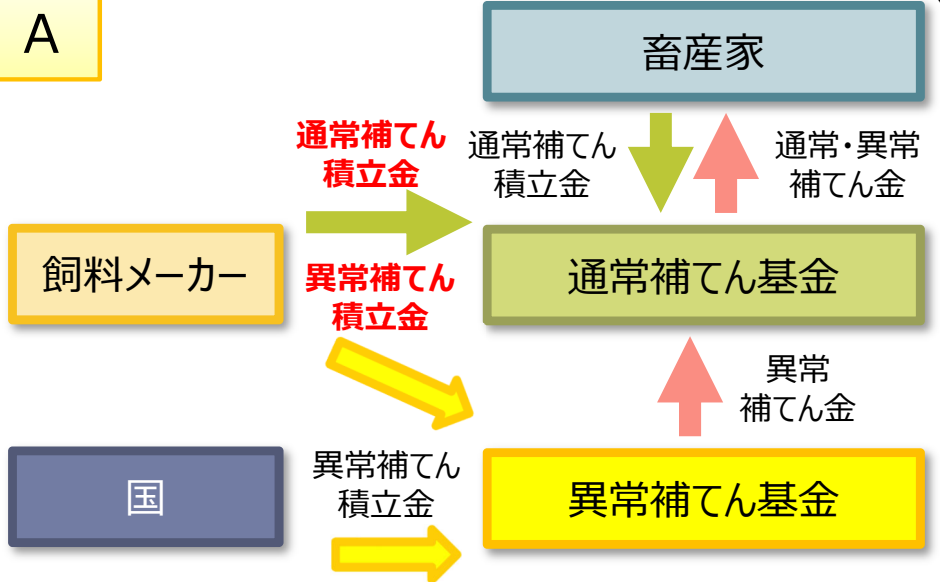
Q 差別化飼料とは？

- A
- ◇ お客様との取組みの中で開発
 - ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

Q 原料ポジションとは？

- A
- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
 - ◇ 飼料価格は、四半期毎に改定
 - ◇ 原材料価格と飼料価格の変動幅にギャップやタイムラグが発生
 ⇒ 原料ポジションが改善・悪化

Q 基金負担金とは？



目的 ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

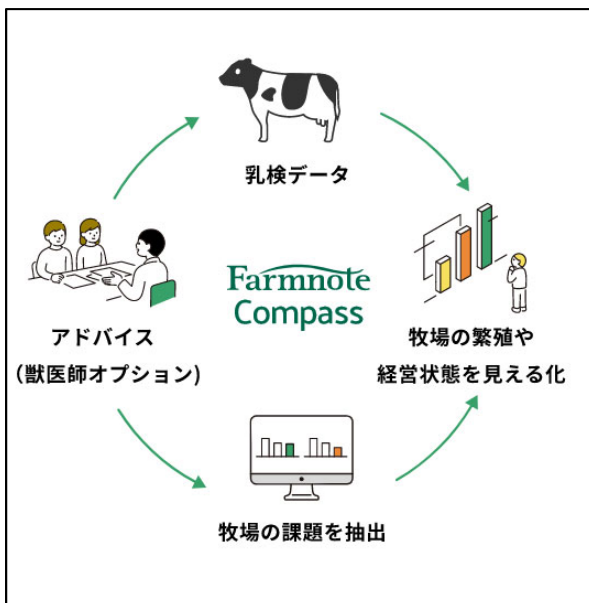
- 内容 ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立
- ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付
 - ◇ 積立金は財源により増減

株式会社ファームノートホールディングスの第三者割当増資の一部を引受け、出資を実施（2021年9月16日）

- ◇ 株式会社ファームノート（株式会社ファームノートホールディングスの子会社）
 - クラウド型牛群管理システム『Farmnote Cloud』
 - 牛の発情兆候や体調変化を検知するウェアラブルデバイス『Farmnote Color』
- ⇒ これらの開発・販売等により、先端技術で酪農・畜産の生産性向上と効率化を推進し、日本の農業に貢献



※(株)ファームノートHP
<https://farmnote.jp/>



酪農生産者向けに牧場経営上の課題を抽出し、
 解決策を提示するサービス
 「Farmnote Compass」の提供を開始

「Farmnote Compass」の取組に
 商系の飼料メーカーの中で積極的に参加

顕在化した課題の解決に繋がる差別化飼料を提案し
養牛用の拡販につなげる



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。